【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑬茶つみ　ステップ１）

年　　組　氏名

茶つみ

一　夏も近づく　八十八夜（や）
野にも山にも　わか葉がしげる
あれに見えるは　茶つみじゃないか
あかねだすきに　すげの笠（かさ）

二　ひよりつづきの　今日このごろを
心のどかに　つみつつ歌う
つめよつめつめ　つまねばならぬ
つまにゃ日本の　茶にならぬ

「冬げしき」の歌の歌詞には、昔のことばがつかわれています。どんな意味か考えながら、下のらんにうつして書きましょう。

学習日：　月　日（　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑬茶つみ　ステップ２）

年　組　氏名

「冬げしき」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

茶つみ

一　夏も近づく　八十八夜（や）
野にも山にも　わか葉がしげる
あれに見えるは　茶つみじゃないか
あかねだすきに　すげの笠（かさ）

二　ひよりつづきの　今日このごろを
心のどかに　つみつつ歌う
つめよつめつめ　つまねばならぬ
つまにゃ日本の　茶にならぬ

○言葉の意味
八十八夜…立春（二月四日ごろ）から数えて八十八日目
あれ…あそこ
あかねだすき…赤い色のたすき
すげ…かさやみのんを作るための草
ひより…おだやかに晴れた日

・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。
・くりかえし使われいる言葉は何だろう。
・歌詞から、どのような様子や場面が思い浮かぶだろう。

解答例

学習日：　　月　　日（　　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑬茶つみ　ステップ２）

年　　組　氏名

「茶つみ」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

茶つみ

一　夏も近づく　八十八夜（や）
野にも山にも　わか葉がしげる
あれに見えるは　茶つみじゃないか
あかねだすきに　すげの笠（かさ）

二　ひよりつづきの　今日このごろを
心のどかに　つみつつ歌う
つめよつめつめ　つまねばならぬ
つまにゃ日本の　茶にならぬ

○言葉の意味
八十八夜…立春（二月四日ごろ）から数えて八十八日目
あれ…あそこ
あかねだすき…赤い色のたすき
すげ…かさやみのんを作るための草
ひより…おだやかに晴れた日

［茶つみ　鑑賞文の一例］

○初夏にみられる茶つみの光景を歌った歌です。（５月の新茶の季節）

○一番、二番とも、四行目以外は、七音と七音の組み合わせになっています。四行目だけが、七音と五音の組み合わせになっています。

○二番では「つみつつ」「つめよ」「つめつめ」「つまねば」「つまにゃ」のように、「お茶の葉をつむ」ことをあらわす言葉がたくさん出てきます。

○お茶の葉の収かくの時期に、かさをかぶって、赤いたすきをつけていると、まるで茶畑に花がさいたようです。

「茶つみ」は、三年生で習う曲です。手遊び歌としてもよく歌われています。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　月　日（　）

小学校国語　No E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑭もみじ　ステップ１）

年　組　氏名

「もみじ」の歌詞を声に出して読みましょう。

読みおわったら、下のらんにていねいにうつして書きましょう。

もみじ

作詞　高野辰之

一　秋の夕日に　てる山もみじ
　　こいもうすいも　数ある中に
　　松(まつ)をいろどる　かえでやつたは
　　山のふもとの　すそもよう

二　たにの流れに　ちりうくもみじ
　　波にゆられて　はなれてよって
　　赤や黄色の　色さまざまに
　　水の上にも　おるにしき

学習日：　月　日（　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑭もみじ　ステップ２）

年　組　氏名

「もみじ」の歌の歌詞を、何度も声に出して読みましょう。

また、かんしょう文（よんで気づいたこと、かんじたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

もみじ

作詞　高野辰之

一　秋の夕日に　てる山もみじ
　こいもうすいも　数ある中に
　松（まつ）をいろどる　かえでやつたは
　山のふもとの　すそもよう

二　たにの流れに　ちりうくもみじ
　波にゆられて　はなれてよって
　赤や黄色の　色さまざまに
　水の上にも　おるにしき

○言葉の意味
すそもよう…着物のすそにつけたもよう
散りうく…散った葉が水面にうかんでいる様子
にしき…金や銀などの糸で、もようをおった美しい織物

・日本の秋の美しさをうたった歌です。
・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。
・歌詞から、どのような様子や場面が思い浮かぶだろう。
・一番と二番の歌詞を比べると、どのようなちがいがあるだろう。

【小学校国語・ワークブック】

解答例

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑭もみじ　ステップ２）

年　　組　氏名

「もみじ」の歌の歌詞を、何度も声に出して読みましょう。

また、かんしょう文（よんで気づいたこと、かんじたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

もみじ

作詞　高野辰之

一　秋の夕日に　てる山もみじ
　　こいもうすいも　数ある中に
　　松（まつ）をいろどる　かえでやつたは
　　山のふもとの　すそもよう

二　たにの流れに　ちりうくもみじ
　　波にゆられて　はなれてよって
　　赤や黄色の　色さまざまに
　　水の上にも　おるにしき

○言葉の意味
すそもよう…着物のすそにつけたもよう
散りうく…散った葉が水面にうかんでいる様子
にしき…金や銀などの糸で、もようをおった美しい織物

［もみじ　かんしょう文のヒント］

○一番、二番とも、「すそもよう」、「おるにしき」だけが五音で、そのほかの言葉はすべて七音になっています。

○一番では、もみじがあざやかに色づいた山が、夕日にてらされているようすがえがかれています。「もみじ」「こいもうすいも」「まつをいろどる」「すそもよう」の言葉を手がかりに、想像してみましょう。

○二番では、ちった色あざやかなもみじの葉が、にしきをおるように水の流れに動いているようすがえがかれています。「散りうく」「波にゆられて」「おるにしき」の言葉を手がかりに、水面の美しいもみじの様子を想像してみましょう。

「もみじ」は、四年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　月　日（　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑮さくら　ステップ１）

年　組　氏名

さくら

日本古謡

（A）

さくらさくら
やよいの空は　見わたすかぎり
かすみか雲か　においぞいずる
いざやいざや　見に行かん

（B）

さくら　さくら
野山も里も　見わたすかぎり
かすみか雲か　朝日ににおう
さくらさくら　はなざかり

「さくら」の歌の歌詞（A）には、昔のことばがつかわれています。どんな意味か考えながら、下のらんにうつして書きましょう。
※今の教科書には、（B）の歌詞が使われていることが多いです。二つの歌詞をくらべてみましょう。

学習日：　　月　　日（　　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑮さくら　ステップ２）

年　　組　氏名

「さくら」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。
また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

さくら

日本古謡

（A）
さくらさくら
やよいの空は　見わたすかぎり
かすみか雲か　においぞいずる
いざやいざや　見に行かん

（B）
さくら　さくら
野山も里も　見わたすかぎり
かすみか雲か　朝日ににおう
さくらさくら　はなざかり

○言葉の意味
におう（にほふ）…香りがほのぼのたつ
　美しく輝く
いざや…さあ
見に行かん…見に行こう

・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。
・歌詞から、どのような様子や場面が思い浮かぶだろう。とくに、「見わたすかぎり」という言葉から、情景や桜の木々の広がりについて想像してみよう。

解答例

学習日：　　月　　日（　　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑮さくら　ステップ２）

年　　組　氏名

「さくら」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

さくら

日本古謡

（A）
さくらさくら
やよいの空は　見わたすかぎり
かすみか雲か　においぞいずる
いざやいざや　見に行かん

（B）
さくらさくら
野山も里も　見わたすかぎり
かすみか雲か　朝日ににおう
さくらさくら　はなざかり

○言葉の意味
におう（にほふ）…香りがほのぼのたつ
　美しく輝く
いざや…さあ
見に行かん…見に行こう

「さくら　鑑賞文の一例」

○題名である「さくら」の言葉が、くりかえし使われています。
○日本の人々にとって、昔から花と言えば「さくら」でした。この歌は、あたり一面にさいた桜の花の美しさをうたっています。
○（A）、（B）とも、、六・七・七・七・七・六・五音の組み合わせになっています。
○季節は春。「かすみか雲か」は、あたり一面にさいているさくらをさしています。「朝日ににおう」は、朝の光にそまっていっそう美しく輝くような情景を表現しています。
○さくらの花が満開になっているようすを、「かすみか雲か」とたとえています。

「さくら」は、四年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑯冬げしき　ステップ１）

年　　組　氏名

「冬げしき」の歌詞を声に出して読みましょう。読み終わったら、下のらんにていねいに写して書きましょう。

冬げしき

文部省唱歌

さぎり消ゆる　港江（みなとえ）の
船に白し　朝のしも
ただ水鳥の　声はして
いまだ覚めず　岸の家

からす鳴きて　木に高く
人は畑に　麦をふむ
げに小春日（こはるび）の　のどけしや
返りざきの　花も見ゆ

あらしふきて　雲は落ち
しぐれふりて　日はくれぬ
もしともしびの　もれこずば
それとわかじ　野辺（のべ）の里

○　言葉の意味

さぎり…きり　　港江…港のある入り江
げに…まことに　小春日…冬の初めのあたたかい日
のどけしや…おだやかだ
返り咲きの花も見ゆ…季節外れにさいた花も見える
雲は落ち…雲が低くたれこめていること
しぐれ…冬の初めに、ふったりやんだりする雨
もれこずば…もれてこなければ
わかじ…分からない

このシートには、解答シートはありません。

学習日：　月　日（　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑯冬げしき　ステップ２）

年　組　氏名

「冬げしき」の歌の歌詞は、昔の言葉（文語）が使われています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

冬げしき

文部省唱歌

さぎり消ゆる　港江の
船に白し　朝のしも
ただ水鳥の　声はして
いまだ覚めず　岸の家

からす鳴きて　木に高く
人は畑に　麦をふむ
げに小春日の　のどけしや
返りざきの　花も見ゆ

あらしふきて　雲は落ち
しぐれふりて　日はくれぬ
もしともしびの　もれこずば
それとわかじ　野辺の里

○ 言葉の意味

さぎり…きり　港江…港のある入り江
げに…まことに　小春日…冬の初めのあたたかい日
のどけしや…おだやかだ
返り咲きの花も見ゆ…季節外れにさいた花も見える
雲は落ち…雲が低くたれこめていること
しぐれ…冬の初めに、ふったりやんだりする雨
もれこずば…もれてこなければ
わかじ…分からない

・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。
・情景を表す言葉から、場面の様子を想像してみよう。
・季節（初冬）を表す言葉を見つけよう。
　一連「さぎり」「朝のしも」　二連「小春日」「返り咲き」
　三連「しぐれ」

【小学校国語・ワークブック】

解答例

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑯冬げしき　ステップ２）

年　　組　氏名

「冬げしき」の歌の歌詞は、昔の言葉（文語）が使われています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

冬げしき

文部省唱歌

さぎり消ゆる　港江の
船に白し　朝のしも
ただ水鳥の　声はして
いまだ覚めず　岸の家

からす鳴きて　木に高く
人は畑に　麦をふむ
げに小春日の　のどけしや
返りざきの　花も見ゆ

あらしふきて　雲は落ち
しぐれふりて　日はくれぬ
もしともしびの　もれこずば
それとわかじ　野辺の里

○　言葉の意味

さぎり…きり　　港江…港のある入り江
げに…まことに　小春日…冬の初めのあたたかい日
のどけしや…おだやかだ
返り咲きの花も見ゆ…季節外れにさいた花も見える
雲は落ち…雲が低くたれこめていること
しぐれ…冬の初めに、ふったりやんだりする雨
もれこずば…もれてこなければ
わかじ…分からない

〔冬げしき　鑑賞文の一例〕

○　一、二番とも、三行目以外は、六音と五音の組合わせになっています。

○　それぞれの連では、次のようなことが描かれています。

一連・早朝の入り江（水辺）の風景
二連・昼間ののどかな田園風景
三連・夜の里の風景

○　一・三連の最後は、体言止め（倒置法）でしめくくられています。

一連・いまだ覚めず　岸の家
三連・それとわかじ　野辺の里

その他にも

・　連のつながり：一連から三連までで、朝、昼、夜と一日のくらしの風景をうたっているともとれます。

・　一連では静けさ（水鳥の声のみ聞こえる）、二連ではのどけさ、三連では静けさ（家の灯火だけが人の生活をしのばせる）が描かれています。

「冬げしき」は、五年生で習う曲です。音楽の授業では、このワークシートで書いたことを思い浮かべながら、声に出して表現してみましょう。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑰越天楽今様　ステップ１）

年　　組　氏名

越天楽今様（えてんらくいまよう）

春のやよいの　あけぼのに
四方（よも）の山べを　見わたせば
花ざかりかも　しら雲の
かからぬみねこそ　なかりけれ
花たちばなも　におうなり
のきのあやめも　かおるなり
夕ぐれさまの　さみだれに
山ほととぎす　名のるなり

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味
やよい…三月　　あけぼの…明け方
四方…すべての方面　　みね…山の一番高い所
なかりけれ…ないものだ
たちばな…ミカン科の樹木
におうなり…色美しく映えている。香っている。
さみだれ…五月雨

「越天楽今様」の歌の歌詞には、昔のことばがつかわれています。どんな意味か考えながら、下のらんにうつして書きましょう。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E16

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑰越天楽今様　　ステップ２）

年　　組　氏名

「越天楽今様」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

越天楽今様（えてんらくいまよう）

春のやよいの　あけぼのに
四方（よも）の山べを　見わたせば
花ざかりかも　しら雲の
かからぬみねこそ　なかりけれ

花たちばなも　におうなり
のきのあやめも　かおるなり
夕ぐれさまの　さみだれに
山ほととぎす　名のるなり

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味
やよい…三月　　あけぼの…明け方
四方…すべての方面　　みね…山の一番高い所
なかりけれ…ないものだ
たちばな…ミカン科の樹木
におうなり…色美しく映えている。香っている。
さみだれ…五月雨

・それぞれの行は、何音と何音の組み合わせになっているだろう。
・一番と二番は、それぞれいつの季節のことをあらわしているのだろう。

解答例

学習日：　　月　　日（　　）

学　年
中・高

歌詞の鑑賞文を書こう（⑰越天楽今様　ステップ２）

年　　組　氏名

「越天楽今様」の歌の歌詞には、昔のことば（文語）がつかわれています。何度も声に出して言葉のリズムを感じ取りましょう。また、鑑賞文（読んで気づいたこと、感じたこと、よいと思ったことなど）を書きましょう。

越天楽今様（えてんらくいまよう）

春のやよいの　あけぼのに
四方（よも）の山べを　見わたせば
花ざかりかも　しら雲の
かからぬみねこそ　なかりけれ

花たちばなも　におうなり
のきのあやめも　かおるなり
夕ぐれさまの　さみだれに
山ほととぎす　名のるなり

※この後の歌詞は省略しています。

○言葉の意味
やよい…三月　　あけぼの…明け方
四方…すべての方面　　みね…山の一番高い所
なかりけれ…ないものだ
たちばな…ミカン科の樹木
におうなり…色美しく映えている。香っている。
さみだれ…五月雨

〔越天楽今様　鑑賞文の一例〕

○三行目までは、七音と五音の組み合わせになっています。一番の四行目だけが、八音になっています。

○二番では、「～なり」ということばがくりかえされています。

○一番では、今の三月から四月ごろの季節のことが書かれています。二番では、今の五月ごろのことが書かれています。

「越天楽今様」は、昔の雅楽（ががく・昔からある日本の音楽や舞）に歌詞をつけたものです。CDなどで曲をきいて、ワークシートで書いたことを思い浮かべながら歌詞を読んだり、歌ったりしてみましょう。